

試聴会・訪問記掲載

河口無線ハイファイディリティ試聴会報告(2017.10.7)

ラックスマンの新製品のプリメインアンプ「L-509X」試聴会に行ってきました。

「L-509X」に特段の興味があったわけではありませんが、使用されたフォーカルのスピーカーを聴いてみたかったので参加しました。

日時：10月7日(土) PM1:15～PM3:00

会場：3F ハイファイディリティ試聴室

<使用機材>



ラックスマン プリメインアンプ L-509X ¥842,400



LUXMAN SACD プレーヤー D-08u ¥1,188,000



フォーカル スピーカーシステム SOPRA-No2 ¥1,684,800 (ペア)



当日のセッティング

<試聴の経過>

製品紹介は、前半は Lux が取り扱うようになったフォーカルのスピーカー、後半が L509X の紹介となりました。

http://www.luxman.co.jp/asset/presspro/utopia3evo/focal_release.pdf

<http://www.luxman.co.jp/presspro/l-509x>

試聴は前半が PC から L509X を DAC として使用してのデジタルファイル音源の再生、後半が D-08u による再生でした。

最初にデジタルファイル音源の再生で聴いたのは女性ボーカルで、声は明晰でベースも力強さがあり、やや人工的な録音であることがよく分るような再生でした。

次にゴールドベルク変奏曲がかかりましたが、音量設定が過大で、それを割り引いても、生演奏で聴くチェンバロの繊細感とは程遠いものでした。さらに、ギターと女性ボーカル、ジャズライブと続きましたが、音の立ち上がりで明晰さ、切れ味の良さが目立ちました。

ここからは D-08u による再生となり、最初は女性ボーカルでしたが、印象はデジタルファイル音源の再生と同様で、非常に明晰な再生でした。次の女性ボーカルを挟んでのラフマニノフの P 協 2 番とショスタコーヴィチの 11 番は大いに期待がかかったのですが、ピアノの左手や金管の華やかさは評価できるものの、弦や木管の質感はドライで、音の協和も満足できませんでした。最後は Take5 と日本のフォークで締めくくりとなりました。

<まとめ>

L509X はセパレートアンプ並みのドライブ力があることが分り、スピーカーを含めてのパフォーマンスは明晰で迫力のある音は評価できるものの、クラシックでは選曲も含めてのことですが、高評価を与えることができませんでした。ともかく女性ボーカルを多く聴かされたので、真価を評価できる状況ではありませんでした。

以上